



エイズホスピスで暮らすブラボンさん夫妻とパト

タイ現地レポート! アジアのAIDS先進国 タイは、どうやって HIV蔓延を抑えたか!?

新規感染者は減ってきたが、以前に感染した人が発症し、エイズ患者はまだ多い。まずはエイズホスピスのレポートから。パトがホスピスに行くのは初めてのことだ

GO! GO! パトリック特別版
不定期連載シリーズ特集

HIV/AIDSの今 2004 春

厚生労働省エイズ動向委員会の報告によると、昨年9月28日から12月28日までに報告された新規HIV/AIDSは300人。その前の3か月に比べ77人も増えている。日本でのHIV感染は確実に広がっている。かたや、'90年代初めに爆発的な感染が起こったタイでは、現在、新規感染者は減少し続けている。国を挙げて予防に取り組んだというタイのHIV事情を探った

PARTY

初めて見る末期患者の姿に、号泣するパト。その厳しい現実

「私たちは二人ともHIVに感染して、このホスピスで出会って結婚した。普通の夫婦」とは違わうでしょ。だから結婚の記念に彼からももらった指輪も左手じゃなくて、右手の薬指にしているの。こっちの指にしているほうが、長生きできそうなのよが……ねっ」

そう言うって、ご主人のブラボンさん(46歳)のほうにチラッと目をやり、微笑むナムフォンさん(29歳)。その幸せそうな笑顔に自嘲した感じは一切なく、「普通の夫婦」と違うことを前向きに捉えているように映った。二人を選んだ結婚記念日が、6年前のバレンタインデーと聞いてその印象はより強まる。同時に、指輪に込められた思いが重みを増す。ナムフォンさんがHIVに感染していることを知ったのは10年前。現在の免疫値を表す数値は13だ。健康な人の免疫値は1000前後で、2000を下回るとエイズを発症したと見なされることから、かなり症状が進行しているのだらう。体の所々にエイズ特有の黒い皮膚疾患も見られる。

ブラボンさんは、9年前に感染を知った。今、免疫値は590あるが、一時はエイズを発症し、62kgあった体重が29kgにまで落ち込んだという。そんな厳しい現実と闘いながら生き



ホスピスの入り口から50mほどの所にある、モニュメントの前で。ここは敷地が広くて緑が多く、まるで小さな村のよう

いでいた。

たまにセックスもする。二人の体調がいいときにね

ナムフォン 私がHIVに感染していることを知ったのは、前の夫との間に子どもを妊娠したとき。そのとき、前夫も初めて自分が感染していることを知ったわ。母子感染はなかったけど、両親ともにHIVポジティブだったから、施設に預けることになって……。その3年後、前夫がエイズで他界して、独りぼっちになった私は、自分ももうダメだろうと思ってこのホスピスを訪れたの。

ブラボン ボクは以前、バスの運転手をしていたんだ。仕事がハードで、あるとき覚せい剤に手を出してしまっ……。前妻と離婚して、さらに生活が荒れた。仲間と覚せい剤を注射針で回し打ちして、女遊びも派手になった。HIVに感染した原因は、そのどっちか。でも、どっちなのかはよくわからない。

二人 700!? スゴイ!(拍手)

パト あ、ありがと……。ブラボン ボクらとは違うなあ。まるで、尊敬する人に向けたかのようにも響いたその言葉。パトはうつむいたまま、言葉が出なかった。パト 自分が彼らであつてもおかしくない。そう考えだしたら、どんな怖くなっちゃって……。

パトが二人と目を合わせられなかった理由も、きっとそこにあるのだらう。



彼のホスピス内にある、末期患者病棟。男女35人、全員25〜35歳と聞いて驚く。「本物は初めて」とうろたえ号泣するパト。昨年、末期患者のメデアア露出がないからこそエイズという病気の深刻さを再認識させられる

ブラボンさんとナムフォンさんが暮らすホスピスは、バンコクから北へ100km、ロップリー市郊外にある。バナブ寺という、タイでは有名な寺院が運営するHIV感染者とエイズ患者専門の施設である。「でもどうして、お寺がホスピスを運営するようになったら？」というバトの素朴な疑問に、施設長のチャーングサム氏が答えてくれた。

「タイではもともと、何らかの理由で家族が世話できなくなった高齢者や病気を患っている人を、寺院が引き取ってケアする伝統があります。ここが、HIV感染者とエイズ患者専門になったのは、ここを設立したバナブ寺の僧侶のお気持ちです。11年前、社会や家族から見放された感染者や患者たちを助けたい」とホスピスという所は、死を目前にした人たちが、穏やかに充実した最後の時を過ごすための安息地。病院ではないので、症状が重い人たちは薬をのんでいるが、治療的なことは一切なされない。薬は、保健省からの無料配布と企業などからの寄付によるという。

毎日4〜5人が亡くなり、遺族の90%が遺骨を取りにこない

「ここに暮らす人たちは、セックス感染の人たちが多くて、薬物感染の人ばかりで、一部。単身者にカップル、子どもと一緒に家族で入所する人もいます。元気な人は施設内の植え込みの手入れや、お寺のお供えの花飾りを作ったり、我々の仕事を手伝ってくれるんです。多いときは、200人以上の人たちが暮らしていましたが、今はだいたい100人くらいだと思っています」と言う施設長。「だいたい100人くらい」とはかなりアバウトな印象だが、そうとしか把握できないわけがある。「ここを訪れる人は毎日4〜5人います。そして、亡くなっていく人も毎日4〜5人いるんです」

亡くなった場合、お寺で葬式をし、火葬される。遺族に連絡をしても、遺骨を引き取ってもらえるのは全体の10%。残りの90%はホスピスに保管されるが、施設長は「正直、対処に困ってしまうほど数が多い」と嘆く。その話を聞いて、バトはブラボンさんが言っていたことをふと思い出した。



写真右上：ホスピスで暮らす子ども。白いシャツの子はHIVに感染している／右下：ブラボンさん夫妻が住むコテージ。病棟以外、住居は全部コテージ／左上：昼食時。食事は厨房へ取りに行く。ベンチで食べる人や、お弁当箱につめて部屋で食べる人などさまざま。一番人気はグリーンカレー／左下：施設長のチャーングサム氏



「彼はここに入る前、家族と親戚と暮らしていたことがあったらだっても、食事を一緒に摂らせてもらえなかったって……。だから、ここは7人でも8人でも、みんなと一緒にご飯を食べられるからすつこく嬉しいって強調してた。彼のように家族から見放されて、ここに来る人たちは多いんだらうか？ 感染していることを家族に言えないで、失踪同然にホスピスに入った人も多いのかなあ」バトが予想したことは、当たっていた。一つだけ付け加えると、一度ここに入った人は、家族が呼び戻しにきても、残ったがるということ。「そういえば……。ナムフォンさんはときどき親戚が会いにくるんだけど、彼らと一緒に住むことは望んでないって言ってた。ここにいるほうが、幸せだからって」

現在までの20年間で約100万人がHIVに感染し、30万〜40万人がエイズで亡くなったタイ。感染者の70%が20〜35歳の若手で、経済活動にも深刻な影響を与えている。しかし、91年から政府が始めた100%コンドームキャンペーンは5年足らずで功を奏し、毎年25万人だった新規感染者がここ数年は5万人に抑えられている。予防に徹したコンドームキャンペーンとほとんどなものであったのか。また政府がケアしきれない部分をカバーする団体の仕組みや、HIVの温床と言われた売春事情の現在、いち早くHIVに取り組んだ軍隊での対策など、タイのHIV事情を報告する。

建前よりも現実を取ったタイ政府の100%コンドームキャンペーン

タイで84年に最初の感染者が報告されてから現在に至るまでの、感染源となるリスクグループの推移をたどると、男性同性愛者→ドラッグ常用品者→売春婦→売春施設設の男性利用者→そのパートナー→一般の人たちとなる。うち、劇的に感染が広がったのは「売春婦→男性利用者」。

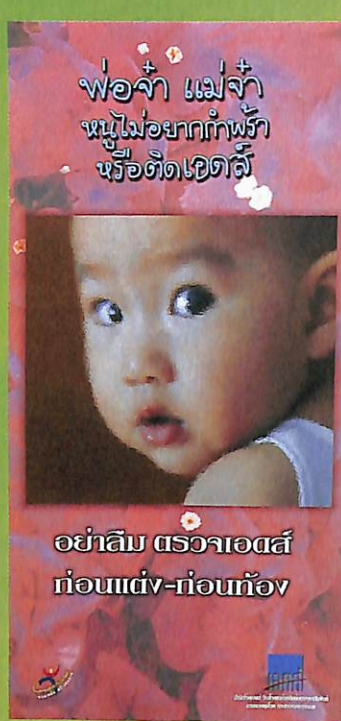
そこでタイ政府は、'91年、売春婦と利用客間の感染経路を断つべく、警察に協力をあおぎ、全国の売春施設にコンドームを無料配布。すべて

対策課のソムヨット氏に聞いた。

役人が店から出てきた客にアンケートしてチェック

「もしこの運動に参加して、コンドームの使用を徹底させるなら、売春行為があったことで店を取り締まることはしません。でも、参加しなければ法をもって、即取り締まりますというわけです。実際、徹底しているかどうか、我々役人や各地の保健師などが、店から出てきた客にアンケートを取りました。店の女の口か

とてもフランクなソムヨット氏。注射針の回し打ちによる薬物感染をなくすべく、針の無料交換もしています」と、これまた大金第一



HIV/AIDSの今 2004 春

右：保健省企画のコンドーム販売機。3年前から公共施設に設置。1箱2個入りで値段はメーカー製品の4分の1／左：「誰が感染者かわからないから、いつもコンドームを」／下：パレンタインデに街頭で配布したコンドームキーホルダー。ビルケースにもなる



らコンドームを使うことを告げられて、ちゃんと使いましたか？と。答えがノーなら、店は営業停止。そこまでのことから、店側は運動に参加しないマズイと認識したんです。入れ替わりの激しい性風俗産業において、全売春施設を管理するのは不可能だろう。噂では、店と癒着した警官もいるらしい。それでも政府の本気は、売春施設設のコンドーム使用率が90%以上に、年間の新規感染者がピーク時の8割減の5万人にまで減ったという結果が証明する。「店の女の口たちには定期検査を義務付けて、意識を高めてもらうように努めました。TVや新聞ではキャンペーン広告を出し、利用客を含む一般の人の意識にも働きかけたんです。それも成功の秘訣でしょう」

法の遵守よりも国民の人命第一とばかりに感染防止策に徹した政府。90年代後半からは、売春施設設自体の取り締まりも厳しくした。目下の課題は、リスクグループの一つとされる若年層。性教育の副教材で、ゴーゴーバーで店の口から誘われたらどうするか？といったことまで触れる本音路線で展開中だという。



左がルーさんで、右がタットさん。二人とも自ら「お金をくれるならヌードになってあげるわよ」と、パンツまで脱いでくれた……

病気への防御意識は しつかり。そして あつげらんかんと売春

今もって、タイの売春事情と人身売買との関係は深く、97年に政府が女性と子どもの人身売買を禁止する法律を制定してもなお、年間数万人の被害者がいる。しかし、ルーさん(28歳)と、タットさん(25歳)のように、単純にお金のために売春する人も増えてきたという。

ルーさんは、兄弟に仕送りをしながら、自分の夢のショップを開く資金を貯めるため。大学生のタットさんは、自分で学費を払いながら、最近購入した一人暮らし用の家のローンを返済するため。ブランド物欲しさにキャバクラで働く日本の女のコとは状況が違うが、仕事に対する割り切り感や共通している、非常にあつげらんかんとしている。そうしていられる理由は、働く店によるところも大きいのだろう。彼女たちは、売春と直結したソープランドではなく表向きは「タイ式伝統マッサージ」

HIV/AIDSの今 2004 春

の看板を掲げる店で働いている。バト 看板にあるとおり、ちよつとも普通のマッサージをするの? ルー 店で働いているコには、エッチはNGのコもいるの。OKのコでも、エッチをするかしないかは、自分と客との交渉だから、したくない客には普通のマッサージだけ。タット どんなに紳士的に見える客でも、最初はマッサージから入る。体に変なブツブツはないか、念入りにチェックしながらね。それで問題なかったら、誘うわけ。でも、コンドームを使いたがらない客は×。バト そのテの客は多いの? タット 私は一度もないわ。基本的に、その気がある客はみんなコンドーム持参で来るから。

病気は怖いから、3か月に 1回HIV検査。毎月内診も

バト 噂でね、日本人客にHIVをうつされたコがいるって……。ルー 私今日、日本人を相手にしました! 28歳の会社員。日本人は、韓国人みたいにケチじゃないから、ベリーグッド! タット うーん、そういう噂を聞いたこともないし、私たちの周りに感染したコもない。でも、外国人客が多いソープランドなら、あつてもおかしくない話なんだろうな。——1プレイ約3000円で、日当は平均1万円強。タイで大卒新入社

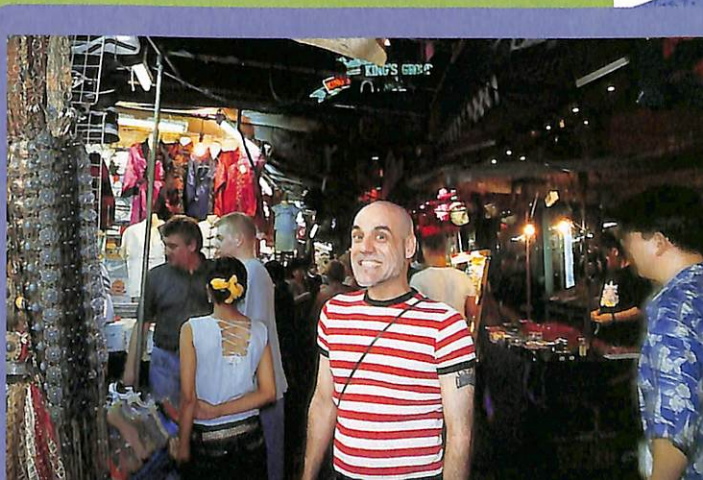
員の月収が約5万円なので、数字だけで考えれば、稼ぎはかないいほうだ。

バト 普通のマッサージ店ってことになっていとなると、エッチに関して店側の指導はない? タット うん、特には。でも、病気は怖いから、自主的に検査してるわ。

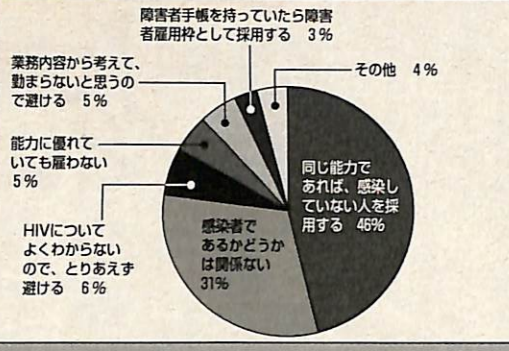
HIV検査は3か月に1回、膣内検査は月1回。ルー 私も彼女と同じ。陰性証明書が店のロッカーに入っている。——売春を止めることはできないかもしれないが、日本で援交しているコたちにも、このくらいの危機意識はせて持ってほしい……。

←PART2は119ページへ!!!

Thailand



もし自分が雇用者の立場であつたら、HIV感染者を採用することについてどう思いますか？最も近いものを1つ選んでください。

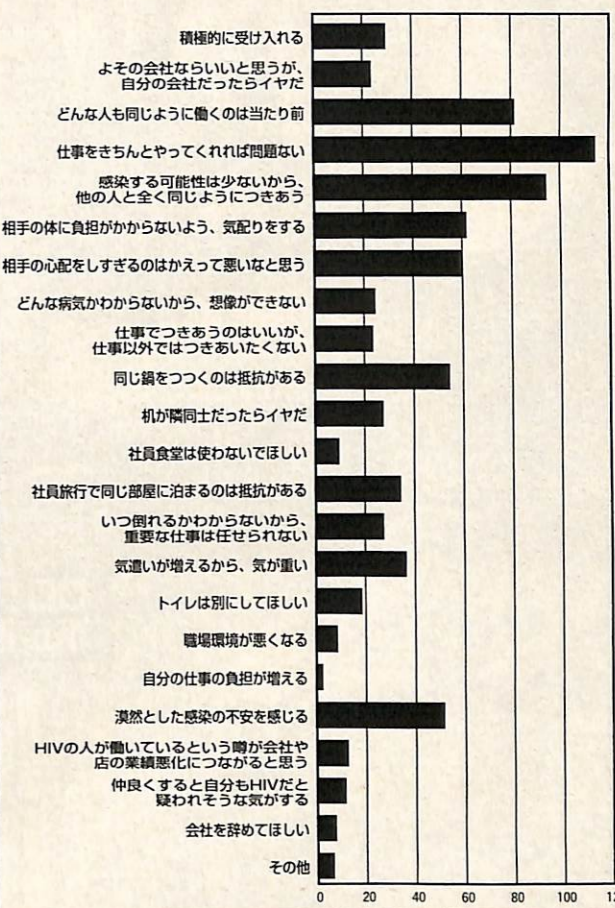


ど、社会復帰するときの足かせになつてしまふんですよ。バト その結果、自分の生きたかった理想からほとんど遠ざかる。A氏 タフになりますよ。就職



HIVのことを告げないと採用されることもあり、告げるとすべて不採用。バトのことではないが、

あなたの職場にHIV感染者がいたら？ご自分の気持ちにあてはまるものをいくつでも選んでください。(複数回答可)



雇用側の無断検査によって解雇されるケースもあった。その最たる例が、昨年最終判決が出た警視庁

HIVの不当解雇事件だ(右下参照)。3年間の訴訟の末、全面勝訴を勝ち取った原告のAさん(30歳)は、今年3月に大学を卒業し、一般企業に就職したという。果たして、その就職活動はスムーズだったのだろうか。バトが直撃する。

バト まず聞きたいのは、面接でHIVのことを話したかどうか。A氏 ボクは、基本的に相手から聞かれない限り話しません。現時点で、体調が良くて仕事に支障がなければ、HIVのために会社に不利益を及ぼしませんからね。バト ホントホント！SPA!が取ったアンケートに「もし自分が感染していたら仕事はどうしま

バト 就職して数か月たつけど、誰か一人でも、HIVのことを話せそうなのはいる？ A氏 全然いませんねえ。いつかバレルかもという不安が、まったくないと聞いたら嘘になります。普段は気になりません。仮に今日バレル「キミはもう我が社では働けない」と言われても、「昨日まで働いていたのは何だったんですか？」と切り返しますから。話し合いをすれば、改善の余地があるはずだ、と希望は持っています。

バト 就職して数か月たつけど、誰か一人でも、HIVのことを話せそうなのはいる？ A氏 全然いませんねえ。いつかバレルかもという不安が、まったくないと聞いたら嘘になります。普段は気になりません。仮に今日バレル「キミはもう我が社では働けない」と言われても、「昨日まで働いていたのは何だったんですか？」と切り返しますから。話し合いをすれば、改善の余地があるはずだ、と希望は持っています。

バト 就職して数か月たつけど、誰か一人でも、HIVのことを話せそうなのはいる？ A氏 全然いませんねえ。いつかバレルかもという不安が、まったくないと聞いたら嘘になります。普段は気になりません。仮に今日バレル「キミはもう我が社では働けない」と言われても、「昨日まで働いていたのは何だったんですか？」と切り返しますから。話し合いをすれば、改善の余地があるはずだ、と希望は持っています。

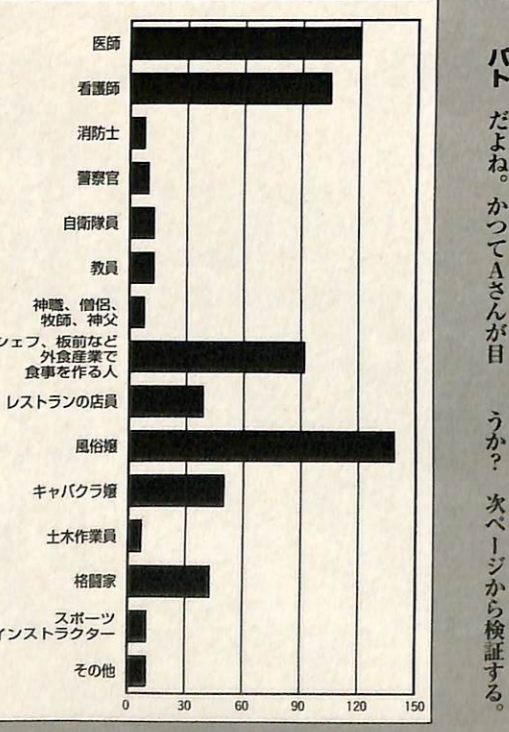
活動でも、いろいろと鍛えられました。ボクは一般枠と、HIVによる障害者認定を使って障害者枠でも受けたんですね。その枠がある会社なら、多少理解があるのかと思いきや……。外資系の会社では「あの有名な病気でね」と妙な反応をされたり、大手シンクタンクでは、ボクが病名を言った途端、面接官の顔色が一変したり。バト 障害者枠がある会社でも、そのレベルか。で、結果は？ A氏 障害者枠で受けた20社は全滅で、逆に一般枠では10社中5社から内定をもらいました。バト HIVに触れる必要がない一般枠のほうが、正當に能力を判断してもらえた結果だね。あつ、でも無断検査はなかった？ A氏 なかったと思います。就職した会社もそのうちの1つです。

バト 就職して数か月たつけど、誰か一人でも、HIVのことを話せそうなのはいる？ A氏 全然いませんねえ。いつかバレルかもという不安が、まったくないと聞いたら嘘になります。普段は気になりません。仮に今日バレル「キミはもう我が社では働けない」と言われても、「昨日まで働いていたのは何だったんですか？」と切り返しますから。話し合いをすれば、改善の余地があるはずだ、と希望は持っています。

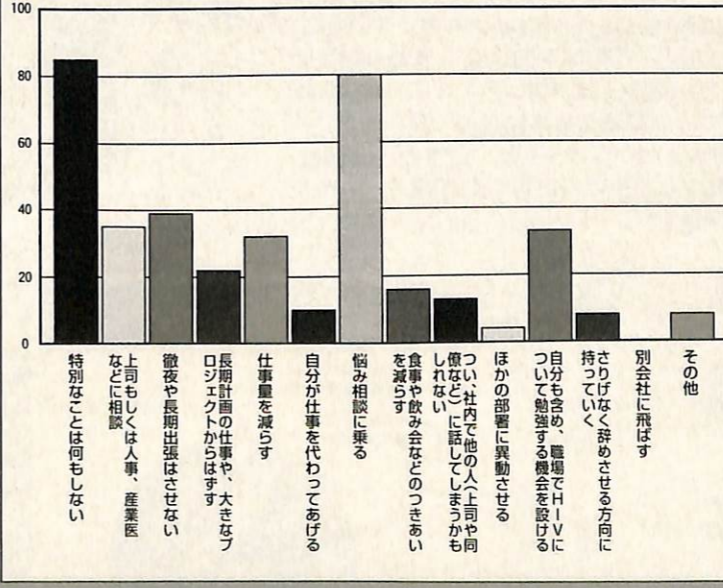
バト 就職して数か月たつけど、誰か一人でも、HIVのことを話せそうなのはいる？ A氏 全然いませんねえ。いつかバレルかもという不安が、まったくないと聞いたら嘘になります。普段は気になりません。仮に今日バレル「キミはもう我が社では働けない」と言われても、「昨日まで働いていたのは何だったんですか？」と切り返しますから。話し合いをすれば、改善の余地があるはずだ、と希望は持っています。

バト 就職して数か月たつけど、誰か一人でも、HIVのことを話せそうなのはいる？ A氏 全然いませんねえ。いつかバレルかもという不安が、まったくないと聞いたら嘘になります。普段は気になりません。仮に今日バレル「キミはもう我が社では働けない」と言われても、「昨日まで働いていたのは何だったんですか？」と切り返しますから。話し合いをすれば、改善の余地があるはずだ、と希望は持っています。

もしHIV感染者が働いていたら、抵抗を感じる職業はありますか？(複数回答可)



もし自分の部下や同僚からHIV感染を告げられたら、あなたならどうしますか？(複数回答可)



「A氏 多くの人が、「HIVに感染している人は全員、ものすごく体調が悪い」と限定したイメージを持っていて、お先真っ暗、人生は終わる、とか？ A氏 そりゃボクも警視庁に不当解雇された直後は、自分の存在意義を見失って、冗談抜きに引きこもろうかと思っていました。でも、そういう時間が長ければ長いほ

警視庁不当解雇裁判のあらまし
原告のAさんは、警視庁警察官に採用直後、無断でHIV検査をされたうえ、結果が陽性だったことを理由に退職させられた。そのとき彼の体調は快調そのものだったが、警視庁は一方的に「キミはものすごく調子が悪い」と決めつけ、母親も呼び出したうえで依願退職を書かせることに支障はない。警視庁は感染者を排除する目的で検査をしたと検査の正当性を否定。また「同意なく検査したのは、プライバシーを侵害し違法」とした。この判決後、警視庁は新規採用者に対する検査を廃止。Aさんは検査廃止について「本当に嬉しく思います」と語った

気になる業界のHIV対策 はどうなっているのか？

特にアンケートで「HIV感染者がいたら抵抗を感じる」との回答が多かった業界や海外勤務の多い企業では、従業員がHIV感染した場合を想定しているのだろうか？

外食・食品関係

まずは、前述のようにパトも働いた経験があり、アンケートで「感染者が働いていたら抵抗を感じる職業」の4位にカウントされている外食産業と、併せて食品関係のメーカーに、HIV/エイズ対策について聞いた。

一番多かった回答が、「入社試験においても社員に対しても、想定したことは何もしない」「大手食品メーカー」というもの。特に外食産業では、「手に切り傷がある場合には食材に触れてはいけない」、下痢をした場合には必

ず上司に報告するなど、伝染病、細菌対策、健康管理には最大の注意を払っていますが、HIVに関しては想定していない(大手外食チェーン)という意見があった。通常の業務で感染する可能性はほとんどない以上、「想定していない」とはある意味で正しい判断、とも言える。だが一方で、実際にHIV感染者が判明した場合、パニックになりはしないかと不安な気もしてしまふ。ましてや「お客様は千差万別なので、こういった取材に答えること自体を控えたい」(別の外食チェーン)という風評に対する過敏さを耳にすれば、なおさら心配になるのだ。

海外勤務系

海外勤務の頻度が高いと思われる商社と旅行会社はどうか。というのも、中国など一部の国では、就労ビザを取得する際にHIV検査

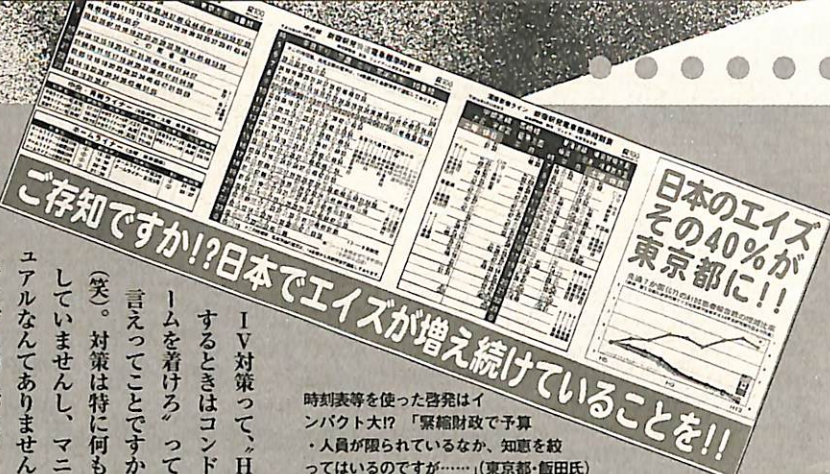
ある食品メーカー担当者は、切り捨てて「免」とばかり、こんな衝撃的な意見を口にした。「感染が判明した社員に対しては即座に退職措置を取らせていただく。その場合は退職金の優遇などを検討する可能性はある。社員も納得すると思われる」

あの、それって法的に問題アリ、なんですけど……。

東京ガス(東京都港区)が作成した社内管理者向けのエイズ対応マニュアル

1. 職場管理に際しての留意事項	2. 職場管理に際しての行動原則
1) 職場管理に際しての留意事項	2) 職場管理に際しての行動原則
3. 職場管理の具体的な行動マニュアル	
4. その他	

（発行）エイズ問題調査委員会（事務局）人材サポート部 健康福利課 健康開発センター



時刻表等を使った啓発はインパクト大!?「緊縮財政で予算・人員が限られているなか、知恵を絞ってはいらぬのですが……」(東京都・飯田氏)

フレットや自社製ビデオを作って啓発教育を実施。社内サイト上には「エイズに関する職場管理者対応マニュアル」をアップして、いつでも誰でも見られるようにしています(東京ガス健康開発センター・澤田亨氏)

シチュエーションごとに細かく想定がなされている。中には感染者と一緒に働くことを拒否する社員に対しては「理由のない職場放棄と見なし、断固たる措置をとらざるを得なくなることを説明する」などの記述もあり、ここまで徹底されている。感染者が隣席にいてもスムーズに対応ができそうだ。「もし感染者が発生して周囲にカミングアウトなどされたら、他の

医療従事者や、仕事柄、危険を伴う自衛隊、消防関係者の対応は?

前ページのアンケートで「HIV感染者が働いていたら抵抗を感じる職業」の2位、3位になったのが医療従事者。血液を扱うからだろうが、現場ではどのような対応がなされているのか。また、仕事柄、危険な職業とも言える自衛隊、消防関係の場合はどうか。それぞれ担当者に聞いてみた。

「採用時にも職員に対しても、HIV検査はしておりません」と語るのには、HIV診療の拠点病院に指定されている病院担当者。検査をしない理由は、ズバリ「感染の可能性が極めて低いから」。だが、「医療従事者としては、実際は知っていなければならぬものだとは思いますが……。HIVであることをカミングアウトして採用試験を受けた場合ですか? 悩んでしまうねえ」と、複雑な胸中を覗かせる。が、別の病院の担当者はこう言い切る。「院内感染の可能性を考えると採用は不可能。応募者に対してはもちろん、職員も半

メーカーほか

こうしたなか、対応マニュアルを作成し、エイズ教育アドバイザーを常駐させるなどして力を入れているのが東京ガスだ。「平成4年10月にエイズ問題啓発委員会を設置して、対策活動に着手しました。偏見は知識がないところからくるということで、パン

年に一度血液検査を実施している。感染が判明した場合は退職してもらう」と、自衛隊員の場合はどうかというところ、「感染が判明しても当該隊員を人事管理上、差別的に扱うことはしない」と前置きしつつ、「HIVは法令上、感染症として規定されており、集団生活を行い、他の隊員に感染させる恐れがある」とから、自らがHIVに感染していることを知った場合は保健所へ報告し、防衛庁長官にも報告することになっている。長官への報告に本人の同意の有無は問わない(防衛庁担当)とシビアな回答。対して消防関係は「職員の採用については、各消防本部が地方公務員法第15条に定める「能力の実証」に基づいて判断している。HIVについて定めたマニュアルはありませんが「消防庁消防課担当者」と語るのみ。人権に配慮しつつも、現実的な議論ができることこそが重要だと思ふのだが……。

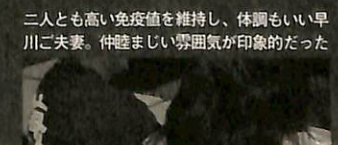
HIV感染を隠したまま働くサラリーマンがツライことは?

「今ホクは、3種類の薬をのんでいて、服用する時間は7時、11時、15時、23時の一日4回。その2時間前は何も食べちゃいけないので、食事は8時、9時、12時、13時、16時、21時に限られます。こうなると、ほかの人の目を盗んで服用することではできないので、職場では腎臓が悪いと言っています」と言うのは、商社に勤める早川さん(仮名・35歳)。

HIVは変異しやすいウイルスで、薬をのんだりのまなかつたりすると、薬に対する耐性が生まれ、効果が出てくなくなる。服薬以外の治療法があっても、薬の種類も豊富なら、耐性ができては怖くない。が、現状はその逆だ。彼の場合、週に28回薬をのむうち、2回忘れただら、確実に耐性ができると、医者から言われている。

「かなりシビアです。薬はケースに入れて、いつも持ち歩いています。仕事をしているとつい忘れがち。だから、妻に携帯を鳴らしてもらっているんです」

早川さんは3年前に感染を知ったときから、その生活を続けている。彼を支える奥さん(27歳)もまた、感染者である。「感染していることに気づかずには陰性証明が必要だからだ。検査を受けて陽性だった場合、その社員の扱いはどうなるのか、プライバシーをどう保護していくかは重要な問題になるはずだ。過去には管理者向けのセミナー



二人とも高い免疫値を維持し、体調もいい早川ご夫妻。仲睦まじい雰囲気印象的だった

結婚し、妻にまで……。自分だけなら、どれだけマシだったか。妻にうつしてしまつたことは、生きてきたなかで一番ショックでツライこと」

「仕事中心で指先を切ったとき、もしその血が誰かに飛んで感染させてしまったら……。彼は、そう想像しただけで、ノイローゼになってしまつたという。同様の不安から、堀さん(仮名・25歳)は転職した。

「感染する前は、スーパの精肉や鮮魚をカットする仕事をしていました。でも感染を知ってからは、家で魚をさばって頼まれてもできませんね」

現在は、介護ヘルパーとして病院に勤務する彼。職場が病院なら体調を崩したときに安心では? 「いや、単なる風邪でも絶対に行きませぬ。もし採血することになったら……。それが怖いんです」

勤務して3年。感染者の雇用に関するマニュアルや対応策があることは聞いたことがないという。

「などで、産業界からの最新情報をレクチャーしたりと啓発活動をしていましたが、最近はこの取り組みはしていません」と話すのは、大手旅行会社担当者。また、某総合商社担当者は「H



社員が辞めていくだろうし、場合によっては倒産だって考えられる(自動車部品メーカー経営者)と回答した企業も、まずは想定することから始めたらいかがか。

行政

このように、企業ごとに大きな温度差があるなか、行政担当者には現実をどう捉えているのか。「残念ながら、都内では一日に1人のペースで感染が報告されており、30代男性1000人に1人が感染者」の時代が目前に迫っています。ウチの会社にはいないと信じている人事担当者がいたら、もっと真剣に考えていただきたいと思ひます」と語るのには、東京都健康局医療サービス部(エイズ対策担当)の飯田真美氏。

「エイズに関する相談件数が一番多かったのは、エイズパニック。取材・文/茅島奈緒 二瓶絵夢 島崎真奈美 北井亮 高橋香澄 長瀬千晴 本誌 撮影/高橋聖人